

## 調べの旋律

聴く

どう鳴いているか聴いてみよう

ピンと立てた二枚の翅を秋の澄んだ空気に震わせて、草原にひときわ美しい声を響かせるスズムシ。姿、形についていえばとくに美しい虫とはいえないスズムシが珍重されているのは、「リーン、リーン」という鳴き声に魅力があるからです。豊かなバリエーションを持つている調べ、その微妙な旋律を分析してみましよう。

宮城野のスズムシは  
七振り鳴くという

スズムシの鳴き方といっても、決して一様ではありません。一日のうちでも昼と夜とでは鳴き方が違いますし、気温の状態、仲間がいるかないかでも微妙に変わります。

スズムシは、あたりの様子をじつとかがいながら、左右両翅をたて、ジージーと短く遠慮がちに鳴きはじめます。これがいわゆる「地鳴き」と呼ばれる鳴き方ですが、警戒がとけるとやがてジーと長く続けて鳴きます。さらにこのジーを強めていき、リーと弱く鳴いてから、全身をせり出すようにして、力強くリーン、リーンと続けて鳴くようになります。このリーンを一振りと言いい、リーンの数を数えて、三振りとか、四振りと言います。振りの数は多ければ多いほど評価は高くなります。普通は、三振りから五振りですが、宮城野のスズムシは七振り鳴くといわれ、古来、珍重されていたということです。台湾中部の野生のものには、十振りはおろか、十二振りも鳴くものがあるというから驚きです。

## 鳴き方のいろいろ

スズムシに限らず虫の歌声は、「オスがメスを呼ぶためだ」と一般にいらわれています。しかし、スズムシをよく観察してみると状況によって鳴き方を変えているのがわかります。よく聞かれるのが「呼び鳴き」といわれている鳴き方で、リーン、リーン、リーンとよく響く鳴き声です。「くどき鳴き」といわれているのは、リーイ、リー、リーツと弱い調子の切なそうな鳴き声です。オスがメスを誘う恋の歌です。本来のリズムを失い興奮して鳴くのは「脅し鳴き」といわれ、ライバルのオスを縄張りから追い払おうとするときの鳴き声です。スズムシは一匹が鳴き出すと他のオスも競って鳴くよう「連れ鳴き」「競い鳴き」また、仲間から一人離れて鳴くのは「一人鳴き」と呼ばれています。

どんな時に、どんな所で、どんな鳴き方をするのか調べてみるのも面白いでしょう。